

## ■ ネットで発信 ウソ拡散

● ネットを通じて広まったウソの例

2011年3月	【東日本大震災】「石油コンビナートの火災で有害物質を含んだ雨が降る」「関東の電気の備蓄が底をつくらしい」
18年6月	【大阪北部地震】「電車が脱線した」「シマウマが脱走した」
7月	【西日本豪雨】「レスキューの服を着た泥棒が大量にいる」
19年2月	【北海道での地震】「5、6時間後に本震がくる」

茨城県の高速道路で8月、あおり運転をした男が前を走っていた乗用車を止め、運転していた人を殴る事件が起きました。事件は大きな関心を集めました。ネットには男と一緒

### ■ 別人の写真

にいた人物として、全く関係ない女性の顔写真や名前が流れました。ウソの情報を信じた人の一部がネットでさらに広めた結果、女性の会社には多くの嫌がらせ電話があり、仕事ができなくなるほどだったそうです。

愛知県豊田市の市議会議員は、ウソの情報を見て自分のフェイスブックにこの女性の写真を載せました。女性は名誉を傷つけられたとして、議員に110万円を求める裁判を起こしました。議員という公の立場にいる人が、積極的にウソを広げようとしたのは悪質だというのが理由です。議員は「早く犯人が逮捕されてほしいと考え、事実かどうかを確認せず、軽率に書き込んでしまった」と説明しましたが、強い批判に辞職せざるを得ませんでした。

## 軽い気持ちで 問題を誘発

### ■ 逮捕された人も

ネットの世界では、誰でも簡単に情報を発信できます。このため、正しい情報だけでなく、思い込みで書き込まれた情報や、ウソの情報も流れています。

ウソを広めた人が逮捕されたり裁判を起こされたりすることもあります。2016年の熊本地震では、「動物園からライオンが放たれた」というウソをSNSに投稿した人が、動物園の仕事に妨害した

## デジタルの時間

インターネット上にウソを流したとして、市議会議員が裁判を起こされ、議員を辞めました。軽い気持ちでの行動が、大変な結果を招きました。インターネットでの情報発信では何に気を付けるべきでしょうか。

第4水曜日に掲載します。

### 👉 考え、話し合おう

- なぜネットでウソが広がりやすいのか
- ネット上のウソはどんな問題を引き起こすか
- ネットの情報に向き合うときの注意点は

として逮捕されました。17年に東名高速道で起きた「あおり運転」による死亡事故では、逮捕された男の勤務先として関係のない会社名などを投稿した人たちが、会社の名誉を傷つけたとして裁判を起こされました。

### ■ 冷静に考える

誰かが流したウソをさらに広めるのは、人をたまたしたり、誰かを苦しめたりすることに手を貸したことになります。ウソとは知らず、「正しいから」「人のためだから」と思っても、責任を問われるかもしれませぬ。

「匿名だから正体がばれない」と思ってウソを流しても、被害を受けた人が裁判所に訴え出れば、投稿した人の個人情報や住所が知られるようになり、ネットの会社に命令することもあります。ネットに気になる情報を見かけたとき、本当に正しい内容か、自分が広める必要があるかを冷静に考えることが大事です。

## 発言には責任を



ネット情報との向き合い方に詳しい専修大教授の武田徹さんの話「ネットには匿名で投稿したり、気軽に情報を広めたりできるの

で、発言に責任を持つ気持ちが薄れがちです。しかし、投稿した人の名前などを調べられる仕組みもあり、発言の重さは現実の世界と変わりません。「名前や顔を出しても同じ発言をするだろうか」と考える姿勢を身につけてください」

## 大人の意識を変えれば、子どもも変わります

かつて、主なコミュニケーションの方法は、「会うことにより話す」「電話で話す」「手紙を書く」という、人と会ったり、文章に書いたりという方法でした。情報も新聞や本を読んで得ることが多かったのです。そこでは上手な話し方、書き方という言語活動を高めることに自然と力を入れていました。

しかし、急速なネットやSNSの普及により、相手の顔が見えないままのコミュニケーションが一般的になってきているのが現状です。ネットやSNSでは、送り手の心が伝わりにくい問題があります。顔が見えていると、その人と心を通わせることができます。相手が見えないと、悪口も書き放題です。相手と自分の心につながりがない場合、いじめの方法にもなります。ネットにあげた情報は、一瞬にして世界中に広がります。送ってしまった後のことをしっかり考えずに不確かな情報をあげ、人を傷つけることもあるのです。

ネットは、大変便利なものであると同時に、使い方によっては大変怖いものであるということをお大人（親）が意識して行動で手本を示し、子どもに教えていく必要があると思います。